

新宮山彦ぐるーぶ第1902回道普請レポート

## 「大峯・南奥駈道の道普請に参加して」

一、徳舛 弘己；日本ベーリンガーインゲルハイム(株)

2度目の道普請に参加させて頂き、感じた事をご報告させて頂きます。

参加を決めた当初は、2日目だけの参加であった前回の思い出し、とにかくきついだろうというネガティブな気持ちが大きかった事は事実でございます。

ですが、その日が近づくに連れて、せっかく参加させて頂くので、やまびこグループ様の活動に少しでも貢献したいという思いで当日を迎えることが出来ました。

1日目は、拠点となる山小屋の補修という事で、コンクリートを練り敷くという作業に参加させて頂きました。他の作業と比べて、見た目は地味ではあるが、コンクリートを一から作るという作業は、想像以上にきつく、非常にやりがいのある作業でした。

その前に水汲みも体験させて頂き、二つの作業で実感したことは、資源のありがたみでございます。人が暮らす、生きるという事は、普段何気なく、使っている資源で、成り立っているという事を実感する事が出来ました。表現が難しく、うまく伝えがたいのですが、当たり前前のものが、当たり前でなくなる事を意識出来るようになったと思います。

そして、夜の宴会。ここでは、やまびこグループの皆様を始め、道普請の常連でございますもはらクリニック関係者の皆様のバイタリティ(生命力)を目の当たりにすることが出来ました。

仕事のできる方々は、夜のポテンシャル、昼間とのメリハリのつけ方がとにかく上手であると、驚嘆致しました。と、同時

に、次回の参加までに、アカペラで歌える盛り上がる曲を練習しておこうと胸に誓いました。

また、宴会での食事はもちろん、この度の道普請を通じて、グループの方々を中心に振る舞って頂いた手料理の数々は、非常においしく、山での活力となった事は言うまでもございません。不思議と普段あまり飲むことが出来ないビール等、酒類も、日常で味わうものよりも、山では数段おいしく感じるのには、なぜなのでしょう。

2日目、4時間かけて山を歩く。アップダウンがそれほどないとお話でしたが、未熟な私にとっては、かなり厳しい道のりでした。それでも、皆様と同じように、ただただ前進あるのみ。上りは、どんな道のりでも乗り越えるという強いメンタルが必要であり、下りは足全体の筋肉をフル稼働しなければならず、身体にとってもなくダメージを感じました。それに比べて、平坦な道を歩く時は、負荷が全くなく進む事が出来ました。

これは、日々の生活と重なるような気が致しました。平坦な道を進んでも、自己成長は得る事が出来ないのではないかと思います。

2日間を通じて、この上ない貴重な体験をすることが出来ました。心が洗われ、日常に戻った時、この度の道普請での経験により、精神的に成長できたのではないかと思います。最後になりましたが、大変お世話になりましたやまびこグループの皆様、並びに、本行事をお誘い頂きました、もはらクリニックの皆様に、改めて深く御礼申し上げます。

## 二、灘浩一；日機装(株)

人生で2度目の山登りが、これほど過酷で楽しいものになるとは思ってもみなかった。

1度目の山登りは小学生の時、その当時住んでいた東京の高尾山だった。当時の記憶は薄れているが、整備された山道を歩き、道中でお弁当をのんびり食べながら登った、フワツとした楽しい記憶が残っている。

そして今回の人生2度目の山登り。漢字3文字で表すと「汗・笑・酷」といった感じで、とにかく過酷だった。過酷な作業の中にも笑いが多かったのは一緒に作業をして頂いた、もはらクリニックの方々、新宮山彦ぐるーぷの方々、そして関連企業の方々のおかげだろう。

初日、私たち日機装グループは、前日入りしていたのに、道に迷い遅刻するという、すばらしく酷いスタートを切った。私たちの失態にも関わらず、茂原先生、川島さん、仁さん、平澤さんは優しくスタート地点で待っていた。「大変申し訳ないなあ、ありがたいなあ」という気持ちで山登りがスタートした。

ただ、この感謝の気持ちもすぐに薄れる。というか自分のことで一杯一杯になっていく。つづら折の坂道を2〜3回折り返したところで息が切れはじめ、普段の生活では開かない汗腺が全開放となった。景色を楽しんでいる余裕は全くなかった。私は今回、初参加のため行仙宿までの距離感もなく、見えないゴールをめざし、ただ一歩ずつ進むしかなかった。そして行者堂に到着。近年、感じたことのない達成感に襲われた。

ホツとしたのも束の間、続いて水汲み。水汲み場への道のりは行仙宿までの道のりに比べれば荷物も軽く、「山、最高!!!」という気持ちになった。しかし、帰り道は水の入ったポリタンが肩を締め付け、腰にもずっしりとくる重量感、なんとか地面を這うように登りきった。自身の足がこれほど重いと感じたのは初めての体験であった。

この日の作業はまだまだ続く。私の担当はサコ土砂止め作

業。丸太を担ぎ、山道を歩く。まさに「山の男」といった雰囲気である。この作業を通じ行仙宿まで、何気なく登ってきた道がこうした努力の下、管理がされていることを初めて知った。また

そういった作業を昔から続けている新宮山彦ぐるーぷの活動に改めて感銘を受けた。

夜の宴会。大変美味しい食事をご用意頂き、腹一杯食べさせて頂いた。食事もさることながら、美味しい酒のつまみもご提供頂き、非常に楽しい宴会となった。酒のつまみは食べ物だけはない、愉快な仲間たちとの会話や歌、芸といったものが全て酒のつまみとなった。私もかなり高揚していたのか、十八番である「もののけ姫」を披露してしまう。とにかく楽しかった。全ての体験が新鮮であった。

2日目、行仙宿を後に4時間かけ持経宿までの道のりを歩いた。事前にアップダウンの少ない道とは聞いていたが、初心者の私には非常に険しい道りだった。この間、思い出に残っているのは「先頭を歩く栗原先生のふくらはぎが非常にたくましいこと」そして、「私がもののけ姫を歌い、足を滑らせ転んだこと」だけだ、それほど余裕がなかった。

とにかくあつという間の2日間であった。次回も参加する機会を与えて頂けるようであれば、必ず参加させて頂きたい。

感謝で始まり、感謝で終わった今回の体験。関係者の皆様「本当にありがとうございます!」

### 三、南出昌紀；セイコーメデイカル(株) 大阪支店

この度は道普請作業に参加させて頂き誠にありがとうございます。また

まず最初に一つ。完全にナメて挑んでしまった事を、深くお詫び申し上げます。

もはらクリニツク出発後、ライバルムサシエンジンヤリング川野氏にだけは負けまいとの一心で挑みました。が、登山開始前より両者ともに背負子の使い方も分からず問題外。登り始めて早々10分程で早くもライバル意識も消滅し、一步登るのに精一杯。

山頂に登り切り満足していた所にさらに追い打ちの水汲み作業。行きの険しい山道より更に厳しく、早くも限界を感じ夜まで持つのかと不安ばかりが募る。

が作業開始からの全てが新鮮そのもの。道作り・薪割り・コンクリート作り等テレビで見えた事のないような作業のしくみ・コツに興味深々。が残念ながらいかにも仕事が出来そうな作業着を纏いながらも、誰よりも役に立たなかった事はここだけの話。

水・電気・火が常に使用できる毎日とは掛け離れており、機械に頼らない環境が目の前に立ちほだかり、普段の生活が如何に便利なのかを痛感致しました。

そして恐れていた？宴会が始まり山彦グループ独特の雰囲気。そして恐れていた？宴会が始まり山彦グループ独特の雰囲気にタジタジの中、噂の日機装・皆川氏に圧倒されながらもそれを上回る灘氏のエンターテイナーっぷり、皆様の美声に酔いしれ、飲めないはずのお酒も気づけば3本目。大変楽しい一時を過ごす事が出来ました。

消灯後、目を瞑れば足を吊る始末。大丈夫なのか2日目。と思いつつながらも起床後早々に山登りが始まる。

山登り開始早々目の前に広がる光景は、急激な登り下りの繰り返り返し。楽な道を4時間と聞いていたのは騙されたのか？と思いつつもうつむき加減でひたすら歩くも、途中からは茂原仁氏に心配されればなしの情けない姿。到着後は肩と膝・指先に激痛が走るものの、達成感に満たされました。

今回、初めて参加させて頂きましたが、食事等全般お世話させて頂いた山彦グループの方々・参加のきっかけを与えてくださ

った平澤様を始め、もはらクリニツクの皆様方、また川野氏へのライバル心は何処へ行ってしまったのかは分かりませんが、関連業者の皆様方に感謝申し上げます。

今回の経験は普段から経験出来るものではなく私自身、大変貴重なお時間とさせて頂きました。恥ずかしながら足を引っ張る姿も多々見受けられたと思われませんが、普段の生活の有り難味と自分の不甲斐なさを痛感致しました。

私には皆川氏を上回る面白さも、皆様を上回る美声も、灘氏に勝るエンターテイメント能力も、正木氏の見た目を上回るインパクトさもございませんが、また次の機会がございましたら是非とも参加させて頂きましたらと思っております。今後ともよろしくお願い致します。

#### 四、部谷大山；中外製薬(株)

初めて今回の大峰奥駆道 道普請活動に参加させて頂き、人生で始めて修行をさせて頂いたと思えました。

行仙宿登山口から行仙宿の約1時間の道のりは非常にきつかったです。登山の経験はありましたが、ビール2ケースと自分の荷物を担ぎ、あんなに重い荷物を担いだのは初めてで、途中で何度もうげそうになりましたが、参加者全員が登っているの自分だけ脱落してはいけないという責任感で、何とか行仙宿に着くことができ、今までにはない達成感を感じることができました。

これを達成した後の水汲み作業、まき割り作業、行仙宿から池原スポーツ公園の下山は、自信もついたこともあり、多少楽しみながら行うことができました。

夜の親睦会は様々な業種の方と沢山話すことができ、視野が広がりました。また、仕事の悩み等の話も何人かの方とする中でアドバイスも頂き、少しストレスもとれたと感じました。

昔は年2回程度信州を中心に登山をしていて、7年ぐらいは休んでいましたが、今回の大峰奥駆道 道普請活動を機に登山の面白さを思い出しました。身近な山から登山を始めていきいと決心しました。また、その時は登山道の整備は無頓着でしたが、今回の経験で登山道の整備の重要性とそれを無償で行っている方々への感謝を感じ、非常にやりがいのある活動であるので、また参加したいと思いました。

本当に貴重な経験、どうもありがとうございました。

## 五、平澤 研；医療法人やまびこ会

台風などによる中止が重なり、今回は二年ぶりの道普請参加となりました。

今回は大変光栄なことに葛峰進龍山証巖坊の方々のご参加をいただき、関係者含め、医療法人やまびこ会から総勢十四名で参加させていただきました。実は、弊社職員の参加者数は減少傾向にあります。日頃お取引をさせていただいております、商社、製薬会社、医療機器メーカーの方々のご参加のお蔭で、参加者数は増加傾向にあるといえます。中でも日機装社の皆川氏は既に鉄板メンバーとなっております。毎回参加してくださることを大変嬉しく感じております。弊社のイベントには欠かせないキャラです。

二年も参加していないうちに、持経宿の改築、行仙のモノレール設置など大きなイベントがありつつも、川島代表が送ってくださる案内と報告を読ませていただくだけに終わっております。一度、父と兄弟と甥っ子たち、またもうすぐ二歳になる娘を背負って、行仙に登ろうかとも計画しましたが、天気が良くなく、それも中止となっております。今回はそれだけに、つもの想いを持っての道普請となりました。そして、いつものごとく、川島代表はじめ、ぐるーぶの皆様が出迎えてくださり、

ぐるーぶの方々の大変なご準備を想像し、恐縮しつつも、喜びを感じながら過ごさせていただきました。

いつかは、きちんとぐるーぶの方々のお役に立てるようにならねばと常々思いつつ、今できることは、一人でも多くの方をお連れし、一人でも多くの方にぐるーぶの皆様の活動の実体験を通じて知っていただければと思っております。それが、何らかの支援にどこかで繋がっていけば、この上なく幸せなことであると考えております。

この度も、ぐるーぶの皆様には、大変お世話になりました。心よりお礼申し上げます。

## 六、皆川 光；日機装株式会社

本日は晴天なり

さて、今回で三度目の参加となり山にまで愛され始めたのか、前回とは打って変わって晴天の下、前泊入りし精神、身体共に名湯にて清めたその肌ツヤの良さといったら、なんとも言い難いその昂揚感、これが山と共に生きる・一体となるという事かと自問自答し、あまりにも多いカーブを、右に左へとハンドルを切りながらアクセルとブレーキを交互に忙しく制御するその所作は、心内とは裏腹なり不思議たるものである。

前回のように若干微塵も皆様の背中も見れずしての到着。つまりは遅刻。責念は頭をよぎるも山の雲のごとし、どこえやら。

この道普請の参加者も茂原先生と、もはらクリニック様の繋がりで新顔も増え、やまびこグループ様の年齢と足して割るとなかなかフレッシュな平均年齢となったのではなからうか。つまりはその若さ、力によってそもその目的である。

道普請作業に前回以上に力が注げるのではないかと、まるで他人行儀のように、いやはや、もはやまるで元祖山彦グループメンバーかのような温かくも厳しい視線で檄を飛ばした道中。

その結果、貴重なアイドル、田中愛弓様からは煙たがられる何とも言えぬこの所存。

五感を凌駕するこの環境、水のありがたき、食のありがたき、自然の摂理への感銘と幾度と心がリセットされ、真っ白なキャンパスのように、それは透明な水のように、只々、それを受け入れる。私は、日赤のアイドルに今煙たがられている。そう、それさえも受け入れた。

醍醐味はやはり夜の懇親会。厳密には一七時からの、下界と比するとかかなり早くからお鍋をつつき、お刺身を食べ、私は三杯も白飯を平らげてしまった。この結果は下山後、自宅に戻るなり、体重計の針がいつもよりもだいぶ下に振れている状況となつてある意味この道普請に参加した自覚が再度、あの時のお鍋の味のように噛みしめる事となるのだ。

次回からも身はしつかり清め、煩惱のない状態でこの会に臨むことをここに私は宣言する。山にも、参加する全ての方々にも私は愛されたい。私は貝になりたいのではない。私は愛されたいのだ。全ての生態に、全ての息する生き物たちに。次回ももっと力仕事をし、もっとストックに私の持つ全ての力を放出するほどの道普請を体験し、

今回は、バーベキューで、焼いた肉汁が滴る肉を食らいたい。入山前の前泊、道普請、下山後の温泉とこれこそが極楽で生きている証でもあると感じている。また参加をする頃には滑り止めの効いたシューズ、防寒具を揃え、望みたい。これも偏にやまびこグループ様のご支援の下成りついている行事であるという事を実感しております。皆様への感謝、青木先生共に何か平地でご協力が出来ればと考えております。腰が痛い、ひざが痛い、ちよつと買物へという場合は、時間都合つく限り皆様を最大限のサポートさせて頂きたい！とその日は終日想っております。本日から普通の日々を送っております。

## 七、正木 勇治；医療法人やまびこ会・看護師

私が、道普請と聞きなれない言葉を耳にしたのは、もはらクリニクに就職する以前の話である。就職活動中に某クリニクのH氏とJ氏からその単語を初めて聞いた。

私は、お世辞にも育ちがいいほうではなく勉学よりも不正交友に勤しんだ青年時代を過ごした。そんなこともあり、恥ずかしながら知識もなく、なんとか話の波に乗ろうと言葉の端々から、如何様なことか想像した。

「熊野古道」「ボランティア」からハイキングがてら楽しくゴミ拾いをするのであろうと早合点していた。この浅はかな甘い考えを打ち砕くまでに、そう時間は有しなかった。少しでも下調べをしていたら、もっと気構えも身体の上上がりも違っていたのかもしれない。

当日、赤い階段を目前に武者震いしていた。外気温が低いことからくる生理現象かもしれないが、ワクワクしていたのは確かだ。

ビールケース2箱を背負子で担いだときには、もっといくらでも担げると感じていた。少しながら体力には自信がある方なので天狗になつていたのかもしれない。しかし、階段を登りきったあたりで全身から汗が吹き出し、下肢の筋肉は悲鳴をあげた。早速、霊峰の洗礼をうけたことになる。数分前の私が愚かなことをしないでよかつたと心底ほつとした。

この急勾配は私の体力を確実に削る。どこにゴールがあるかわからないのも精神的にきつい。背負子から伝わる荷の重さがそれらに更に拍車をかける。一方で、歩が進む。進めたくて仕方がなかった。体が山に少しづつ順応してきているのを感じる。

半時もすれば周りの景色の雄大さを感じるまでになった。仲間と同じ体験を共有できている。これほどまでに楽しいのはいつ以来であろうか。そうこうしているうちに目的地に到着する

ことができた。

荷を降ろした瞬間は、この急勾配を登り切った者にしかわからない快感であろう。それからの水汲み、ガラ場の補修、薪割り。これらは山小屋で生活するうえでとても大切なことである。しかし、私の心は意に反して童心に返っていた。そこには上下関係も、しがらみもない。こんな素晴らしい肉体労働があったらどうか。

そのあとの、御馳走と酒。刺身と鍋に感涙し、うまい酒に舌を回した。やまびこグループの方々の一芸に感嘆し、行者堂で一晩を過ごした体験は、末代まで語り継ぎたい貴重な体験であった。

翌朝、あまりの寒さに目が覚めた。なぜならそこには薄壁一枚を隔てて霊峰を覗いているのだ。

簡単に食事を済ませたあと、出発前には行者堂で、証嚴坊の方々による峰中安全祈願の勤行。これには身も心も引き締められた。そのおかげで誰一人、怪我を負うことなく修験道を踏破することができた。

山の偉大さ奥ゆかしさ、ついでに楽しさを惜しみながらも帰路についた。帰る途中で立ち寄った温泉では2日間の疲れと汚れを洗い流し、皆お互いに賞賛と労いの言葉を掛け合っていた。皆表情がたくましくなり、これからの荒波に立ち向かえる度胸が備わっていた。それは私も例外ではない。

今回、道普請に参加することができ、身も心も一皮どころか殻を破れたのではないかと思います。また、初参加ながらも私を支えてくれた皆様に心から感謝すると共に、これから道普請に参加し、心身共に鍛錬し、行仙宿の存続に尽力していく所存です。

## 八、川野陽平；(株)ムサシエンジニアリング

平成28年10月15日(土)

午前、行仙宿まで荷運び(ビール1ケース、鉈?ケース)と水汲み(キングリート2ケース)。

午後、コンクリート練り&舗装、薪割り体験、懇親会。

平成28年10月16日(日)

午前7時30分・持経宿まで巡視?

2日間を通して

昨年、台風の影響で中止となり今回初道普請に参加させていただきました。

初めの行仙宿までの登山と水汲みで参加を少し後悔しつつも山の空気と景色の良さに感動しながらの午前をすごしました。

午後からは、初体験コンクリート練りと薪割りで茂原先生に陸での動きの鈍さを指摘され苦笑い。また、懇親会でも酔われていた?茂原先生に取引をやめようと言われ酔いが醒めたこともありました。

翌日の巡視では、登りは息が上がり、下りは足が震え弱音ばかり吐いていたと思います。

今回このような貴重な体験をさせていただき、つらくもありませんでしたが皆さまと共に過ごすことができたことに感謝しております。

後日ですが、平澤様にみせて頂いた写真に自分は、ほぼ笑顔で写っていないのは気のせいでしょうか。とても楽しかったのですが辛さが表情に出ているのが残念です。次回は陸でも強くなれるよう鍛えなおして挑めたらと思います。

## 九、田中 愛弓；日本赤十字社 和歌山医療センター

数か月前、もはらクリニクの平澤氏より「大峰奥駈道の道普請に参加しませんか?」と声をかけられ、いつも歩かせて

もらっている山で何かお手伝いができればとの思いから道普請への参加を希望しました。しかし、自分で参加を希望しておきながらも、道普請・土木作業は力仕事であり、非力な私で大丈夫だろうかと不安な気持ちもありました。平成28年9月15日、午前4時半に集合場所であったもはらクリニックに到着、私以外のメンバーが男性であったことに落胆し、「やっぱり参加しなければよかったかも」と後悔しながらの出発となった事を覚えていきます。

このようにネガティブな気持ちでスタートした私の道普請ですが、皆様と荷揚げや水汲み、食事の準備、懇親会といった楽しい時間を共有し、大峰奥駈道の美しき、道普請に真摯に取り組む姿勢を目の当たりにし、本当に充実した2日間を過ごすことができたと感じています。

新宮山彦ぐるーぷの皆様のこれまでの活動、修行道の整備や山小屋の建設は私の想像を絶する労力を要するものであり、御苦労を表す言葉が見つかりません。それでも40年以上もの間活動を継続、多くの人々に支持されているのは、ぐるーぷの皆様の強い使命感と、暖かいお人柄にあると確信しています。

仕事上、海外で地域の人々を巻き込んで事業を展開していく必要のある私にとって、これら山彦ぐるーぷのあり方、皆様の姿勢に間近で触れ合えたことは非常に有益な経験となりました。

結果として、道普請のお手伝いではなく様々なことを教えていただく形となってしまう、新宮山彦ぐるーぷの皆様には申し訳ない気持ちでいっぱいですが、ぜひ今後も続けて参加させて頂きたいと強く願っています。

最後になりましたが、今回の道普請で大変お世話になりました新宮山彦ぐるーぷの皆様、道普請参加へのきっかけをくれた平澤氏をはじめとするもはらクリニック関係者様、葛峰進龍山証嚴法の皆様に心よりお礼を申し上げます。

十、葛峰進龍山証嚴坊の方々からは、以下のメッセージをいただきました。

素晴らしい活動だと思えます。

この活動を末長く維持していけるように是非私達も何かしらお手伝いができるようにと思えます。

やまびこグループの皆様、茂原クリニックの皆様には、本当に2日間貴重な経験させていただきありがとうございます。これからも末長くよろしくお願い致します。

以上

